

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光事業論 Tourism Industry		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
地域文化論、経営学Ⅰ・Ⅱ、観光学概論、観光ビジネス実務総論、国際観光論、国内観光地理、				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
地域文化論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
観光事業には、公共が行う観光事業と民間が行う観光事業がある。本講座では、前者の立場からわが国の観光事業の歴史的展開を概観した後に、わが国の観光推進政策と観光事業の関わりや、着地型観光やニューツーリズム観光といった新しい観光潮流の中での観光事業の在り方を考える。				
授業の目標				
①わが国の観光事業を歴史的視点から説明できるようにする。 ②わが国における観光立国政策を理解して、地域観光の在り方を説明できるようにする。 ③新しい観光の潮流を理解し着地型観光と地域活性化の在り方を説明できるようにする。				
授業の方法				
講義形式の授業を行う。基本的には配布資料を中心に行うが、DVDなどの映像を多く取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
わが国の観光事業の現状とその歴史の学習と、地域活性化のための着地型観光事業の学びを通して、観光事業や地域活性化に関する一般的な提案ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	観光と観光事業(観光事業の概念、観光事業の意義と観光産業)			
第3回目	観光事業の歴史的展開①(観光事業の誕生、わが国観光事業の黎明期、わが国観光事業の推進期)			
第4回目	観光事業の歴史的展開②(わが国観光立国への第1期、第2期、第3期)			
第5回目	わが国観光立国の基本的枠組みと観光の現状(観光立国の基本的概念、わが国観光の目標と現状)			
第6回目	地域による競争力の高い観光地の開発(地域資源を活用した観光地づくり、観光事業の振興、観光のユニバーサルデザイン)			

第7回目	観光事業の競争力の強化および人材の育成(サービスイノベーション、生産性向上の取り組み、人材の教育) 小テスト	
第8回目	国際観光の振興(ビジット・ジャパン・キャンペーン、相互交流の推進)	
第9回目	観光分野の新らたな視点(ラグジュアリー・トラベルマーケット、ニューツーリズム、体験交流プログラム)	
第10回目	国内観光事業の促進と新しい街づくり①(観光立国推進基本法、国内観光のニーズの多様化)	
第11回目	国内観光事業の促進と新しい街づくり②(国内観光の多様化、観光街づくり)	
第12回目	着地型観光と地域社会振興①(新しい観光の現状と課題、着地型旅行商品の開発)	
第13回目	着地型観光と地域社会振興②(着地型観光の主体と「旅行業法」の規制緩和、着地型の経営モデル)	
第14回目	持続可能な観光と国内観光事業①(持続可能な開発・社会とは、環境問題と観光事業)	
第15回目	持続可能な観光と国内観光事業②(持続可能な国内観光事業の今後)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準(S)としては、授業には無遅刻・無早退・無欠席で授業に積極的に参加して、配布物資料以外の重要な事項についても主体的に調べ、授業での疑問点には進んで質問すること。
レポート	10%	最高水準(S)としては、第4回と第5回に鑑賞する観光事業に関するDVDの内容をテーマに添ってその要点を記述すること。
調査報告書		
小テスト	10%	最高水準(S)としては、第9回目の講義で実施する小テストで、今まで実施した講義の中の5つの専門用語を、1問300字以内にその要点を纏めて記述すること。
試験	60%	最高水準(S)としては、設問の主旨を理解した上で、設問で求められている内容を必要な専門用語を使いながら一貫性を以て論述すること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
北山宋忠『現代観光事業論』ミネルバ書店		
履修上の留意点・ルール		
授業中の私語は禁止する。基本的に欠席・遅刻・早退は認めないが、止むを得ない時には申し出る事。		